

## 13 ツキノワグマ

(クマ科)

兵庫県ランク:要注目

*Ursus thibetanus*

環境省ランク:LP

## 種の概要

本州、四国に分布する。九州では絶滅している。東日本では狩猟が行われるほど生息しているが、西日本では1990年代に絶滅の危機に陥り、狩猟が禁止された。ただし、2016年に兵庫県は狩猟を部分解禁するほど生息数は回復している。肉食獣ではあるが、食性は、植物を中心とした雑食性である。秋に堅果類をよく食べるため、凶作年には大量出没などが発生し、人とのあつれきが多い種であるため、捕獲が過度になると絶滅の危険性が増す。



写真提供: 橋本 敏男

## 県内における生息状況及びその他特記事項

氷ノ山山系を中心とした東中国個体群と床ノ尾山系を中心とした近畿北部西側個体群がある。どちらも一時、遺伝的な孤立化が指摘され、分布域も縮小した。しかし、20年間の狩猟禁止と特定計画に基づく、保護管理により、現在では推定生息数が増加傾向にあり、800頭以上生息していると考えられる。現状では絶滅の危険性はなくなったが、人とのあつれきや管理の方法などによって、過度な捕獲が進むとふたたび絶滅リスクが高まるため、しばらくは、個体群の動向を監視する必要がある。

## 保護上の留意点

過度な捕獲が行われないように注意が必要であるが、増加力を取り戻しているため、被害防止と合わせた管理が適正化されているか、常にモニタリングが必要である。

## 県内分布

川西市、三田市、猪名川町、西脇市、三木市、加西市、加東市、多可町、姫路市、相生市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、神河町、上郡町、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、篠山市、丹波市

【執筆者】横山 真弓

## 主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	
	捕獲	△
	遺伝	△
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	
	限界	
	希少	

